

ツカサ工業株式会社



2023 年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023 年4月1日～ 2024 年3月31日)



ツカサ工業 本社



本社 1F 打ち合わせホール



本社工場

作成日 2024年4月26日

目 次

項 目	ページ
あいさつ	3
環境経営方針	3
組織の概要	4
事業・製品の紹介	4
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5
主な環境負荷の実績	6
環境経営目標及びその実績	6
環境経営計画の取組結果とその評価	7-8
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果, 並びに違反, 訴訟等の有無	9
緊急事態対応訓練	9
代表者による全体の評価と見直し・指示	10
これまでの環境活動の紹介	10



新しい特殊継手の開発



ベアリングパイプ+ボス溶接



クリーンルーム用備品

当社では、従業員、地域社会、お客様全ての満足の為に、変革し続ける事を経営理念として進めてまいりました。
今回、エコアクション21に取り組むことにより、当社の今までの取り組みを環境への配慮と言った視点で見つめ直し、新たな取り組みへチャレンジします。
エコアクション21への取り組みがお客様に満足いただき、従業員を幸せにし、自社の発展へと繋がり、地域社会への貢献につながるように取り組んでまいります。



環境経営方針

<環境経営理念>

従業員、地域社会、お客様 全ての満足の為に、変革し続ける。本業である配管製作、施工工事を通じて、地球温暖化問題への取り組みや地域の環境活動に自主的・積極的に取り組みます。

わが社は時代の変化とともに会社を変化し続けてゆきます。従業員一丸となって環境経営の継続的改善でに取り組んでまいります。

<環境保全への行動指針>

1. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
2. 電力及び自動車燃料の二酸化炭素排出量を削減します。
3. 廃棄物の発生抑制、リサイクルと適正処理の推進に努めます。
4. 適正な利用により水使用量の削減に努めます。
5. 環境に配慮した製造の推進



制定日：2023年4月1日

代表取締役 霜野 順司

□組織の概要

更新日：2024年3月1日

(1) 名称及び代表者名

ツカサ工業株式会社

代表取締役社長 霜野 順司

(2) 所在地

本 社 大阪府泉佐野市日根野2321-1

貝塚事業所 大阪府貝塚市東山2丁目13-1

泉南事業所 大阪府泉南市信達六尾466-1

(3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 統括マネージャー 的羽 実輝 TEL：072-424-1489

担当者 技術・総務G 宮下 雅之 TEL：072-424-1489

(4) 事業内容

管工事業、機械器具設置工事業、クリーンルーム用備品の製造・販売

プラント設備のユニット製造、バリデーション業務、配管製作

(5) 事業の規模

売上高(2023年度) 3億77 百万円

	本 社	貝塚事業所	泉南事業所	合計
従業員 名	14 名	0 名	0 名	14
延べ床面積 m ²	570 m ²	300 m ²	600 m ²	1470

(6) 事業年度

4 月 1 日 ～ 3 月 31 日

□認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： ツカサ工業株式会社
対象事業所： 本社 貝塚事業所 泉南事業所

活動： 医薬用水製造供給装置・医薬用品調整装置の設計、製作及び据付工事

□事業や製品(商品)の紹介



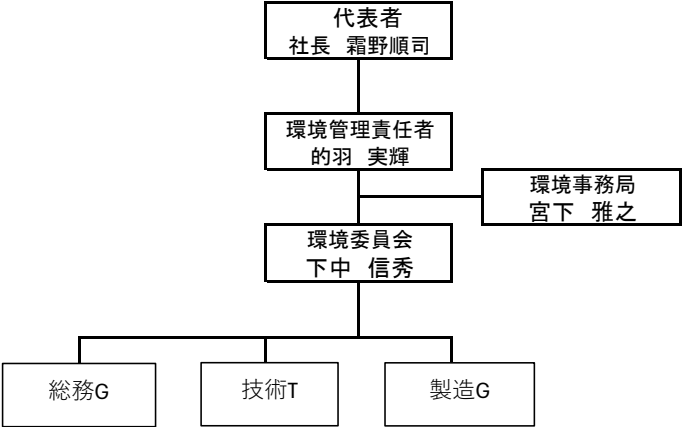
特殊配管



精製水供給ライン

□環境経営組織図及び役割・責任・権限表

更新日：2024年3月1日



	役割・責任・権限
代表者(社長)	環境経営に関する責任者
	環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備
	環境管理責任者を任命
	環境経営方針の策定・見直し
	環境経営目標・環境経営計画書を承認
	代表者による全体の評価と見直し、指示
環境管理責任者	環境経営レポートの承認
	環境経営システムの構築、実施、管理
	環境関連法規等の取りまとめ表を承認
	環境経営目標、環境経営計画書を承認
	環境活動の取り組み結果を代表者へ報告
環境事務局	環境経営レポートの確認
	環境管理責任者の補佐
	環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施
	環境経営目標、環境経営計画書原案の作成
	環境活動の実績集計
	環境関連法規等の取りまとめ表の作成および最新版管理
	環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施
	環境関連の外部コミュニケーションの窓口
環境委員会	環境経営レポートの作成、公開(地域事務局への送付)
	環境経営計画の審議
各G・各T	環境活動実績の確認・評価
	自部門における環境経営方針の周知
	自部門の従業員に対する教育訓練の実施
	自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告
	自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施
	自部門の想定される事故及び緊急事態への対応の為の手順書作成
	試行・訓練を実施、記録の作成
全従業員	自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
	環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚
	決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	25,274	34,312	29,564
廃棄物排出量				
一般廃棄物排出量	kg	432	326	372
産業廃棄物排出量	kg		0	0
水使用量	m ³	228	109	117

※二酸化炭素排出係数 0.434 kg-CO₂/kWh 関西電力の調整後の係数(2022年)

※負荷の実績は工事現場を含む

□環境経営目標及びその実績

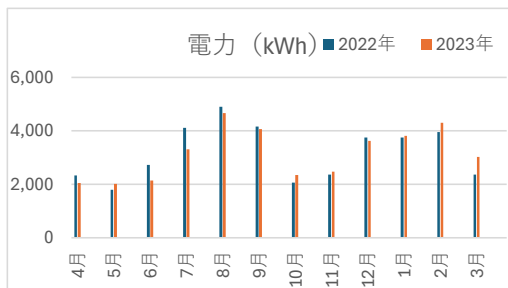
項 目	年 度	2022年	2023年		評価	2024年	2025年
				通期			
		(基準値)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	16,794	16,458	16,304	○	16,122	15,954
	基準年度比		98%	97%		96%	95%
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO ₂	17,518	17,168	13,260	○	16,993	16,818
	基準年度比	2022年	98%	76%		97%	96%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	34,312	33,626	29,564	○	33,115	32,772
一般廃棄物の削減	kg	326	310	372	×	303	293
	基準年度比		95%	114%		93%	90%
水道水の削減	m ³	109	104	117	×	100	98
	基準年度比		95%	107%		92%	90%
環境に配慮した製造の推進	不具合件数	10	8	2	○	18	12
	基準年度比		80%	20%		180%	120%

□環境経営計画の取組結果とその評価

数値目標: ○達成 ×未達成

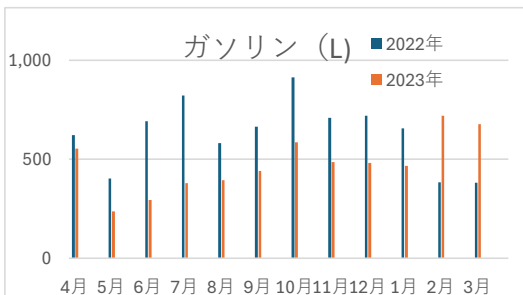
活動: ◎よくできた ○まあまあできた △あまりできなかった ×全くできなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	エアコン使用ルールを明確に決めなおし、表示・実施することによって夏季の使用量を減らすことができた。秋・春の気候変動時期は気候が不安定であり目標達成にならなかった。また次年度は引き続き電気使用量の観察を実施し、ルールをより適正にしていこうとや、電気を使用せずに気温をさげる方法を取り入れる。
・空調温度の適正化(冷房28℃ 暖房20℃)	○	
・不要照明の消灯	○	
・働き方見直しによる残業時間の短縮	○	
・作業・業務の見直しによる効率化	○	



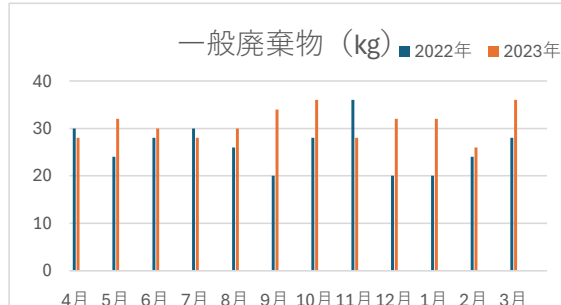
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	2,329	1,799	2,733	4,111	4,903	4,155	2,060	2,357	3,754	3,754	3,958	2,370
2023年	2,051	2,020	2,150	3,309	4,659	4,060	2,346	2,470	3,624	3,811	4,309	3,030

自動車燃料による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	○	できるだけネット通販を使用するなどして、社有車の使用を減らしていたため、全体的に目標を達成できているが、2・3月については連泊の出張が重なり目標達成ができなかった。次年度はできるだけ自動車を使用せずに公共交通機関を使用するように勤める。
・アイドリングストップ	○	
・効率的なルートで配送	○	
・安全運転の推進	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	623	402	693	823	581	665	914	710	720	655	383	382
2023年	554	236	294	378	393	440	586	485	482	468	720	678

一般廃棄物の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	ユニットの受注が多かったため、支給品等に付随してくる一般廃棄物が多かったため目標達成ができなかった。
・分別の徹底	○	また、来客が多かったため、来客時のお茶出し、オープンファクトリー開催によるゴミの排出が目標未達成の原因であると考えられる。
・帳票見直しによる印刷物の削減	○	次年度は段ボールなどを梱包にしようするなど再利用し、廃棄物を減らす。
・梱包材の再利用	○	
・持込ごみの見直し	○	

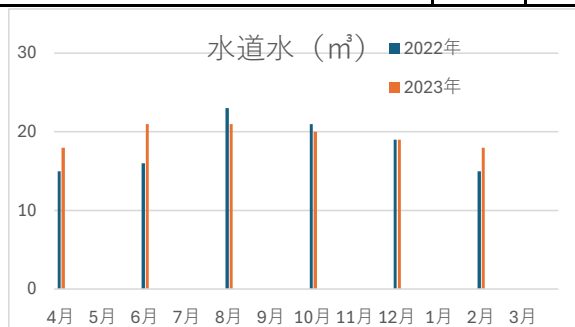


契約内容を確認しているが、現時点では金額は固定されており、多少の量に関係なく引き取りとなっている。

(現契約は過去の実績より2kg/袋として毎月112袋を出している。毎週回収に来ており、袋数も固定となっている。4月より排出するごみ袋の重量を図り、正確な数値を出して廃棄量を正確に把握する事で削減に取り組みたい。)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	30	24	28	30	26	20	28	36	20	20	24	28
2023年	28	32	30	28	30	34	36	28	32	32	26	36

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組内容
数値目標	×	社員の人数が増えたことにより、トイレ使用回数や手洗いの回数が増加。また、来客人数も多かったためウェルカムドリンクや皿洗いに水道水を多く使用した。そのため、目標達成ができなかった。次年度には効率的に節水できる機器を検討したい。
・節水シールの貼り付けとポスター掲示	○	
・トイレ廃水にECOモードを導入。	○	
・自動水栓取り付け	○	



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	15	0	16	0	23	0	21	0	19	0	15	0
2023年	18	0	21	0	21	0	20	0	19	0	18	0

環境に配慮した製造の推進	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・工事の効率化	○	不具合報告の数は目標を達成しているが、出荷前の検査で発見できているケースが多い。(LEDライトを導入し、検査の精度が向上している)工場内での不具合発生件数を精査し、次年度はさらに工場内でのエラーを少なくするだけでなく現場でのエラーも減らし、不具合発生件数を0にしていきたい。
・作業ミスの防止	○	
・顧客クレーム削減	○	

不具合発生件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年	2	0	0	0	2	0	1	0	0	0	2	3
目標	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
2023年	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合否	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

2022年発生件数 10

2023年発生件数 2 減少率 64 %

客先での不具合発生件数は、大きく減少しているが、今後は不具合が発生していないのか？工場内で未然に防止できているのか？
 或いは、発生自体を抑制できているのか考察し、作業ミスの撲滅を図る。

□環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物及び産業廃棄物の保管・排出、水銀廃棄物の適正処理
下水道法	除害施設
フロン排出抑制法	業務用空調機の簡易点検(3ヶ月に1回・廃フロンの適正処理)
自動車NOx・PM法	社有車 ハイエース2台
高圧ガス保安法	ボンベ類の転倒防止
家電リサイクル法	エアコン、テレビ、冷蔵庫
小型家電リサイクル法	スマホ、電卓など
資源有効利用促進法	原材料の使用の合理化、屑鉄スクラップの再利用・減少取り組み

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。（遵守評価日：2023. 2. 1）
なお、違反、訴訟等も過去3年間(2021年度～2023年度)ありませんでした。

□緊急事態対応訓練

緊急事態の想定： 地震発生時の緊急避難訓練	
■実施日： 2023年12月15日実施	■実施場所 本社
■参加者： 霜野社長、的羽マネージャー、下中リーダー、宮下リーダー、霜野(幸)さん、関さん、松並さん、菊地さん、神田さん、阪上さん、坂上さん、中山さん、古仲さん、三木さん、小林さん	■実施内容： ・地震発生時の避難訓練
■評価： 初回としては避難、安否確認のみである。 昨年同様、全館放送の音量が小さく、機械が作動していると非常に聞き取りにくい。別の方法を考える必要がある。	手順書の変更の必要 ☐ あり ☒ なし
■実施状況の様子 別紙緊急時対応経過表を参照 緊急地震速報を館内放送⇒机の下に避難⇒地震が静まった後に1Fへ避難⇒安否確認の為、点呼⇒的羽統括責任者が確認し終了。	



□代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年4月10日

当社において2021年4月に環境方針を定め、エコアクション21への取り組みを開始しました。全従業員への周知をすると共に、データとの収集等により、環境に対する取組結果としては、社員の環境に対する意識の向上が図られつつある。対象となった2023年度は出張が少なかったため自動車燃料の削減は目標達成している。一方、ユニットの受注量は増加したため、自社工場内での作業が増加した。それに伴い一般廃棄物排出量削減は達成できなかった。また、二酸化炭素排出量について、現場では受注量や工期、工事場所や施工条件等によって変動が大きくなることも判明している。現時点においてシステムの見直しは特に必要はないが、今後についても二酸化炭素排出量削減に向けた取り組みを推進するとともに、現場においては、創意工夫などを積極的に取り入れ、環境に配慮した施工となるよう、特に意識して計画を立てる事。更にBCPIに関しては取り組みを積極的に行い、勉強会も実施した。周知徹底が次年度の取り組みターゲットとし、全従業員に対して継続的に教育を行い、環境活動に関する意識の更なる向上を図って行くこと。エコアクション21を活用して、これらの課題解決に向けて、全社挙げて推進して行くこと。

環境経営方針	☒ 変更なし	☐ 変更あり
環境経営目標・計画	☒ 変更なし	☐ 変更あり
実施体制	☒ 変更なし	☐ 変更あり

□これまでの環境活動の紹介

エコキャップ運動

2021年より取り組んでおります。



⇒キャップ430個を焼却すると3150gのCO₂が発生

⇒キャップ430個で10円

⇒キャップ860個でポリオワクチン一人分になります。

従業員の人員も少ない為、キャップの回収数量は少ないですが、環境意識を持って頂く為の取り組みです。